

第28回横浜解放まつり

横浜解放まつりが1月28日(土)、佐賀町民館で開催されました。28回目の開催となった今回のテーマは「解放運動の熱と光を未来へ」。午前中に山口県人権啓発センターの川口泰司さんによる講演会が行われ、午後は小・中学生による発表などがありました。

記念講演では、学生時代から人権問題に向き合ってきた川口さんが、「寝た子はネットで起こされる！」部落差別は今」と題し、日々変化する人権問題についてインターネット上の課題を中心に熱く語りました。

川口さんは、自身の体験を交えながら「差別は誰を不幸にしているのか。それは、差別される側ではなく、差別をする人たちが不幸・不自由にするものだ」と、その実態を話しました。

その後、佐賀保育所の園児たちによる歌と太鼓の発表があり、午前の部は終了。第2部となる午後からは、佐賀中学校吹奏楽部による演奏、人権作文と人権劇・解放劇の発表、また、SHIN~NABURA~ URA~による和太鼓の演奏やH o B y e によるコーラスがありました。

した。

開催にあたって、実行委員長の川崎健太郎さんは、「人権の尊重が平和の基礎であるが、現実とは違う。人権教育の推進をすることで、子どもたちを育てていくことが重要である」と差別に対する疑問、そして思いを語りました。

昨年12月には「部落差別解消推進法」が制定されました。これについて、川崎さんや講師を務めた川口さんは「人権問題にとって大きな一歩」と話しました。大小ではなく、このまつりが町民にとって「新たな一歩」となったのではないのでしょうか。



中学生による人権劇



講演をする川口泰司さん



「みんなともだち」などを披露



SHIN~NABURA~の演奏

2017大方人権まつり

大方人権まつりが2月4日(土)、ふるさと総合センターで開催されました。午前の部では、各団体による発表が行われ、午後の部では弓削田健介さんと比留間光悦さんによる記念講演が行われました。

大方中学校吹奏楽部による演奏で全体の幕が開け、人権問題に関する発表が順番にありました。小・中学生による人権作文や、町職員労働組合部落解放研究部による世界津波の日 高校生サミットで採択された「黒潮宣言」の朗読、大方中央保育所の園児による歌と太鼓の演奏がありました。また、浜松解放子ども会小学部による「ないたあかおに」「みなとのできるまで」の演劇や、同会中学部の活動紹介などもあり、大方地区の若い世代による人権問題への取組が披露されました。その他にも保育所・小中学校の教職員らによる歌の披露や、黒潮町出身で生涯人権問題に尽力した「おらんく」の先人村越末男さんの紹介などがありました。

午後の部では、「いのちと夢のコンサート」と題し、全国を旅しながら音楽活動を行っている弓削



「ないたあかおに」



中央保育所の園児による発表



教職員による「365日の紙飛行機」



比留間さんによる演奏

田健介さんと比留間光悦さんによる記念講演が行われました。

講演では、弓削田さん、比留間さんそれぞれで演奏をしたり、後半は2人で一緒に演奏をしました。「糸」など全14曲の演奏、また比留間さんがタップダンスを披露すると会場はさらに盛り上がり、和やかな雰囲気です。コンサートは幕を閉じました。

